

高いレベルの経済連携の推進とわが国水産業

2011.2.4

食と農林漁業の再生実現会議幹事会

J F 全漁連 常務理事 長屋信博

1. 高いレベルの経済連携がわが国水産業に与える影響

- ◎わが国水産物輸入の上位を占めるT P P 関係国
2位 (米国)、3位 (チリ)、8位 (ベトナム)
- ◎国境措置廃止により国内生産額の26%に当る42百億円が減少
(農水省試算)
- ◎水産物輸入の自由化は国際的な資源管理に影響
- ◎T P P は非関税措置撤廃を含めた強度の自由化—食の安全性等への影響
- ◎肉類の自由化は水産物価格へも影響

2. 過去の大幅な関税率の引き下げによってわが国水産業が被った影響

- ◎累次の関税引き下げにより水産物の平均関税率は4.1%に
- ◎魚価の低落と価格形成のメカニズムの崩壊

3. 強い水産業づくりに向けた課題

- ◎漁業経営に大きな影響を与える燃油等漁業コストの安定
- ◎わが国漁業の構造改革 —就業者・漁船の高齢化への対応—
- ◎資源・漁場の維持回復等 —地域活動の活性化等—

TPP関係国からの水産物輸入実績 (2009年)

相手国 (EPA締結)	チリ (済み)	ニュージーランド (済み)	シンガポール (済み)	ブルネイ (済み)	米国	ベトナム (済み)	豪州	パル (合意)	マレー (済み)	TPP関係国 計	2009年 全体
数量 千トン	266	24	0	266	266	114	17	138	15	840	2,595
金額 億円	1,102	115	6	1,156	1,156	669	342	141	62	3,593	12,963
金額 百万\$ (順位) →	1,178 (3)	123 (18)	6 (67)	1,234 (2)	1,234 (2)	719 (8)	367 (12)	151 (15)	67 (30)	3,845	13,872
1	サ・マ 魚粉	サ・マ エビ	観賞魚	-	タ類・スミ タの卵	エビ 比調整品	真珠 マ・ロ・ガジキ	魚粉	エビ イカ		マ・ロ・ガジキ エビ
2	ウニ	マ・ロ・ガジキ	サメ	-	サ・マ	イカ	エビ	魚油	マ・ロ・ガジキ		サ・マ
3	魚油	キンメ	塩干魚	-	ギンダラ	比調整品	アワビ	比調整品	イトヨリ		比調整品
4	寒天	アジ	真珠	-	カニ	タコ	メロ	ウニ	クラゲ		カニ

※ 水産物貿易統計年報2009 (日本水産物貿易協会)

国境措置撤廃による影響試算 (農水省)

■ 農林水産物生産減少額 45,000億円 程度
 GDP減少額 84,000億円 程度、就業機会の減少数 350万人程度

■ 水産物生産減少額 4,200億円 程度

前提：水産物13品目を対象。関税率が概ね10%以上かつ生産額が10億円以上 (1次加工品を含む)

(例) いか・干しするめ ▲68% ▲680億円 : 加工向けに特に大きな影響。
 コンプ・同調整品 ▲70% ▲190億円 : 結びコンブ・佃煮用途など加工向けに特に大きな影響。
 干しり・無糖のり・同調整品 ▲68% ▲680億円 : 低品質な業務用製品に特に大きな影響。

世界の資源状況と水産物貿易金額・数量の推移

(1) 水産資源の動向

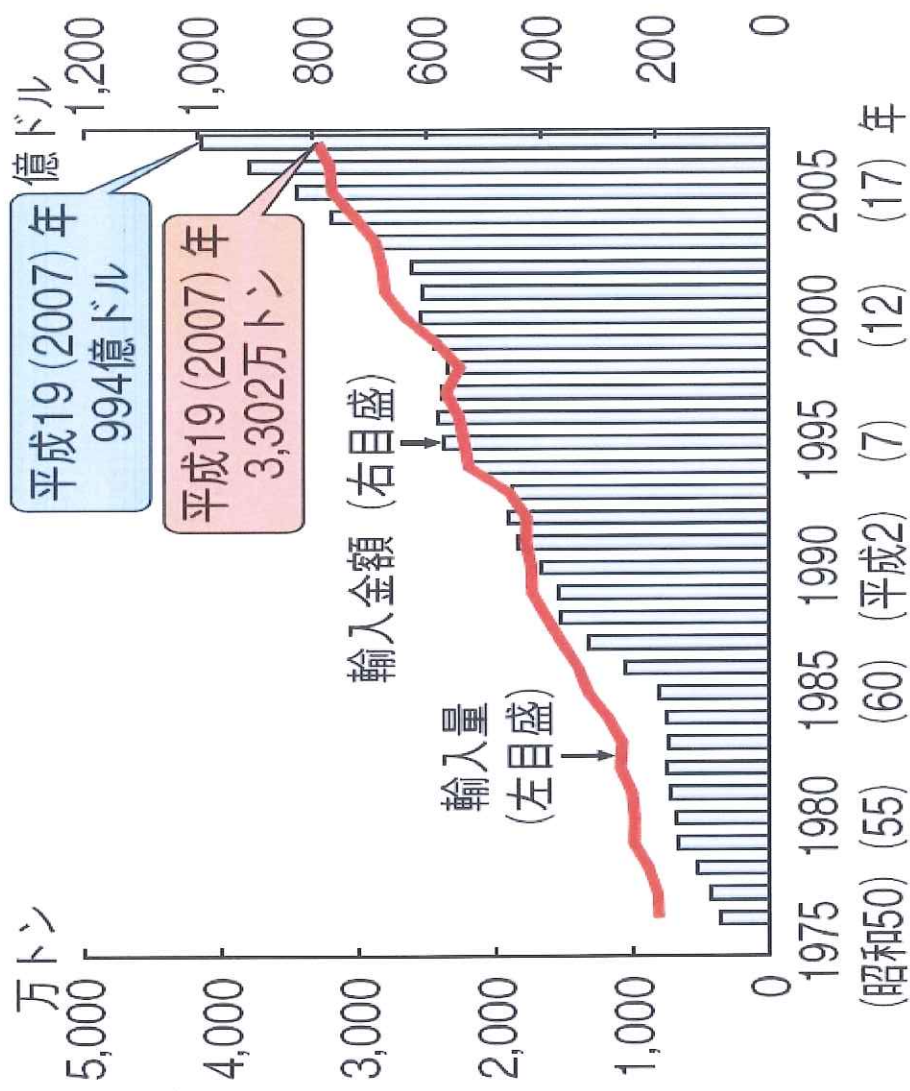
○ 過剰利用または枯
渇状態 28%

○ 満限までの利用状態 52%

○ 適度または低・未利用
状態 20%

(資料: FAO「世界漁業・
養殖白書2008年」)

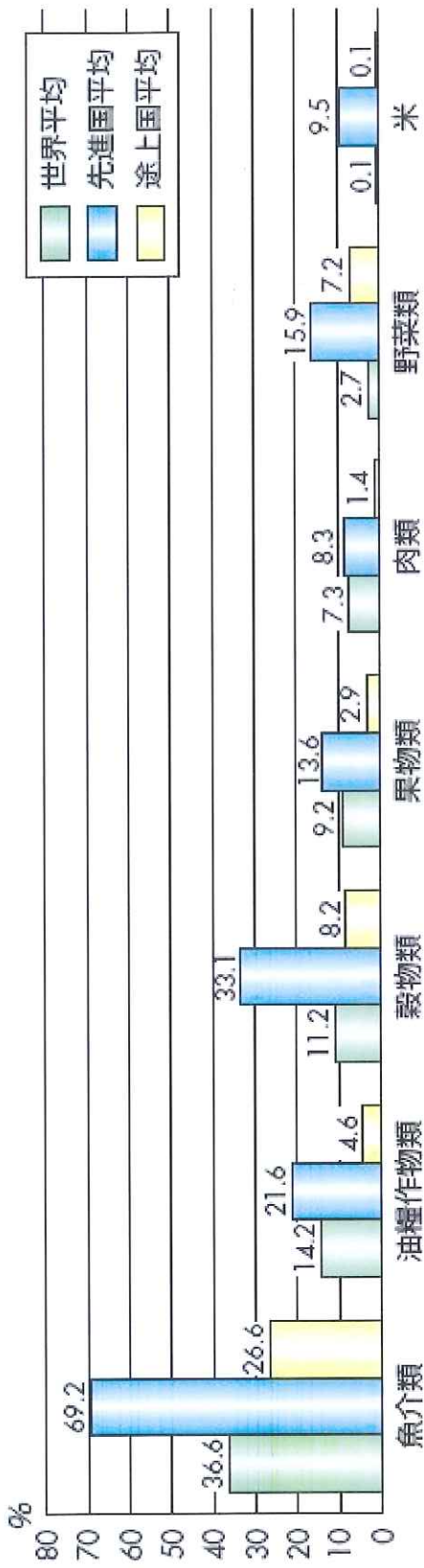
(2) 水産物貿易金額・数量の推移



(資料: FAO「Fishstat」)

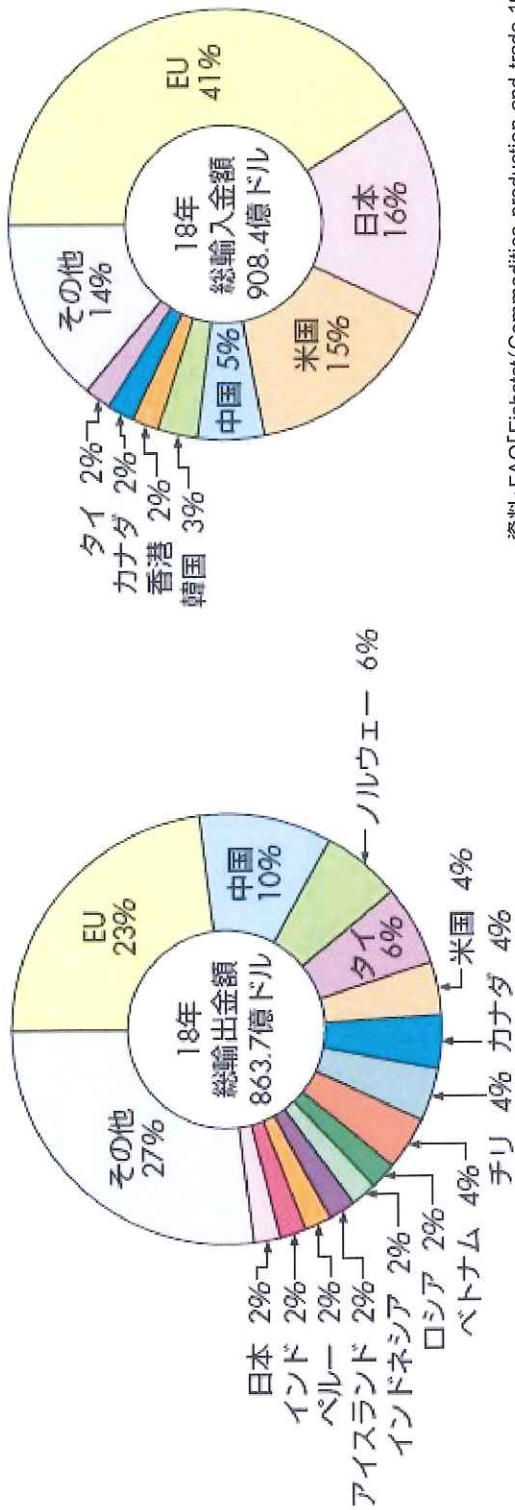
世界の食料生産量のうち貿易に向けられる割合

○生産量のうち輸出に向けられる量の品目別割合(平成15年)



資料：FAO「FAOSTAT」に基づき水産庁で作成
注：輸出数量については、原重量ベースにより計算。

○世界の水産物貿易の内訳(平成18年)



GATT・各ラウンドにおける水産物関税の推移

○過去のラウンドにおける関税引下げ例

ラウンド名	引き下げ率・期間	主要な引下げ率 (基準税率→引下げ)
ケネディラウンド (1964~1967年)	<ul style="list-style-type: none"> 一律 50%削減が原則の 一括引き下げ方式 	<ul style="list-style-type: none"> 魚類 (冷蔵・冷凍) 10%→5% 魚卵 (塩・干・薫) 15%→7.5% 甲殻類 (冷蔵・冷凍) 15%→7.5% 軟体動物 (冷蔵・冷凍) 15%→7.5% 肝油及び油脂 10%→5% 缶詰及び調整品 20%→15%
東京ラウンド (1973~1979年)	<ul style="list-style-type: none"> 引き下げ率は 2~5 割 程度、貿易加重平均で 約 25%が原則 	<ul style="list-style-type: none"> ニシ、卵 (冷凍) 10%→6% ニシ、卵の卵 (冷凍) 10%→6% エビ (冷蔵・冷凍) 5%→3% カニ (冷蔵・冷凍) 10%→6% イカ (冷蔵・冷凍) 10%→5%
ウルグアイラウ ンド (1986~1994年)	<ul style="list-style-type: none"> 引き下げ率は貿易加重 平均で約 33% *現在には加重平均で 4.1%に! 	<ul style="list-style-type: none"> サマ、卵 (冷蔵・冷凍) 5%→3.5% サマ、卵 (冷蔵・冷凍) 5%→3.5% エビ (冷蔵・冷凍) 3%→1% カニ (冷蔵・冷凍) 6%→4% タコ (冷蔵・冷凍) 10%→7%

○主要水産物関税率 (2010年現在)

品目名	99年 %	品目名	99年 %
サバ (生鮮・冷蔵) (冷凍)	10 7	イカ (モンゴウイカ) (モンゴウイカ除 く)	3.5 5
アジ (生鮮・冷蔵) (冷凍)	10 10	コンブ (生鮮・乾燥)	15
イワシ (生鮮・冷蔵) (冷凍)	10 10	ノリ (干ノリ)	1.5円 /枚
ブリ類 (生鮮・冷蔵) (冷凍)	10 10	サマ・双類 (生鮮・冷凍) (塩干フルー)(塩蔵)	3.5 8.4 8.4
サンマ (生鮮・冷蔵) (冷凍)	10 10	マグロ・サマ類、サマ	3.5
サトウグサ (生鮮・冷蔵) (冷凍) (冷凍すり身)	10 6 4.2	エビ (生鮮・冷凍)	1
サバ・イサ (生鮮・冷蔵・冷凍) (塩干)	10 15	カニ (生鮮・冷凍)	4

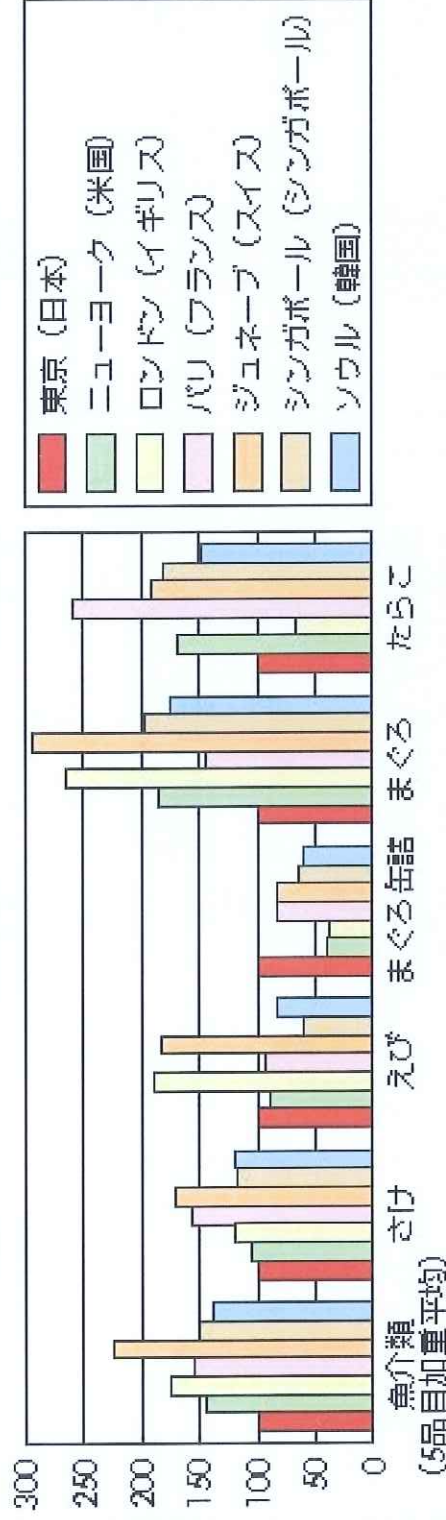


東京の魚介類小売価格は海外主要都市と比べ低価格

農林水産省「東京及び海外主要6都市における食品の小売価格調査結果」によれば、魚介類（さけ、えび、まぐろ缶詰、まぐろ、たらこの加重平均）の東京における小売価格は、18年11月時点で海外6都市よりも低価格となっています。個別品目ごとに見てみると、東京における小売価格はまぐろ缶詰において海外6都市を上回る一方、さけ・まぐろにおいては海外6都市よりも下回っており、特にまぐろについてその差が顕著になっています。

この背景としては、バブル崩壊後のデフレ傾向や、海外に比べ我が国の水産物の流通インフラが発達していること、魚介類が我が国では大衆も含め普及している一方で海外では未だ贅沢品としての位置づけに留まっていること等が考えられます。

東京の魚介類小売価格を100とした場合の海外主要都市の魚介類小売価格



資料：農林水産省「東京及び海外主要6都市における食品の小売価格調査結果」

注：1) 図中の数値は、出典資料中における「内外価格差」の数値である。

2) 内外価格差 = 海外の価格 (現地通貨) × 為替レート (円/現地通貨) / 東京の価格 (円) × 100